

QC実践セミナー

生産現場・職場の問題解決・改善力を高める

製造業・製造現場向け

開催日時 **2026年 6月 9日(火)**
2026年 7月29日(水)
2026年12月15日(火)
2027年 3月16日(火)

大阪会場*

オンライン

オンライン

オンライン

各回とも 10:00~16:30

*会場開催では、レゴブロックを用いた演習を実施します。

【管理・間接・スタッフ部門向け】
プログラムの会期もごございます。

対象 管理監督者、改善リーダーの方、改善活動にQCツールを役立てたいとお考えの方

講師 石川 秀人 氏
 コンサルティング(株)
 フェロー・コンサルタント

参加料(税込) 法人会員：60,500円/1名
 会員外：71,500円/1名

*参加料にはテキスト(資料)費が含まれています。
 *昼食の提供はございません。(各自でご用意ください。)
 *法人会員ご入会の有無につきましては以下URLにてご確認ください。
<https://www.jma.or.jp/membership/>
 *お申込みページ内参加申込規定を確認・同意のうえお申込みください。

ねらい

多くの職場で導入・活用されているQCツールですが、『つじつま合わせの後付け資料になっている』『改善活動にあまり役立てられていない』『グラフや表を作っているだけ』というケースがよく見受けられます。

改善を活性化させるには、まず場づくりがきちんとできていることが前提です。そのうえでQCストーリーの流れから7つ道具を目的に合わせて使い、PDCAをしっかりと回していくことが大切です。

本セミナーでは、後付けの資料にならずに、日々の業務に役立つものにできるQC7つ道具の使い方を事例研究や演習を通じて習得していただけます。

参加者の声

- 仕事の数え方のポイントが作業者によく理解できる内容となっていて、人に教える時にぜひ活用していきたい。
- ディスカッションしながらの演習が、人それぞれの個性が出て面白かったです。非常にわかりやすい流れでセミナーが進行していったのでよかったです。
- グループでの意見交換の時間が多かったため、色々な意見を聞くことができ参考になった。
- QC7つ道具の使い方や使い所など、今までは聞いて覚えることしかしていなかったが、演習を取り入れられていたので体感することで更に深く知ることができた。
- グラフを作成しムダを見つけて改善すること、PDCAサイクルで何回も改善して標準化させることなど
- 一般的な方法論を自社に落としこめてとても良かった。丁寧に指導いただけました。
- データをまとめるグラフ図が種類毎にどう活用すればよいかわかった。講師の説明が聞きやすかったです。

プログラム

10:00~16:30 [昼食] 12:00~13:00

1 QC的問題解決アプローチとは

- QCを正しく理解し、問題解決ストーリーを体得する
- よくある改善に結びつかないQC手法の使い方
- 帰納的アプローチと演繹的アプローチ
- 歯止め、標準化で後戻りさせない、誰でもできる化

ゲーム実習



(会場型のゲーム演習)

2 統計データの基本/層別

- 何のためにどんなデータをとるのか? 統計データ 取り方の基本
- 収集したデータを整理し、層別するには

3 QC7つ道具を理解し、使いこなす

- (1) チェックシートで「悪さ」をチェックし、積極的にムダを見つける **演習**
- (2) 発表用資料になりがちな特性要因図。モグラたたき、形式的対応、タコつぼ化などをなくす **事例研究**
- (3) 散布図の縦軸(y軸)と横軸(x軸)がきっちり決まると関連性がよくみえる、「暑くなるとビールは売れるのか?」という関係性 **事例研究**
- (4) グラフは日々管理にこそおすすめ。日々管理で作業者の意識づけができる **事例研究**
- (5) パレート図をつくと「どこに着目するか」がわかる、層別した中から重要視する項目を抽出するパレート図の使い方 **事例研究**
- (6) ヒストグラムでは、バラツキの大きさで改善の方向性を決める、バラツキの幅から正規分布を見る **事例研究**
- (7) 分析を精緻なものにする管理図、Xbar-R管理図の作り方 **事例研究**

*プログラム変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

